

建築音環境工学の研究・教育とその発展に対する貢献

名誉会員 木村 翔君

木村翔君は、1954年に日本大学理工学部建築学科を卒業後、東京大学大学院に進み、1959年に日本大学専任講師に採用され、助教授を経て1969年に教授に就任、2001年に退職して日本大学名誉教授の称号を授与された。同君は、音響材料の吸音特性、コンサートホールや居室内の音場解析・評価・設計手法、各種騒音の予測と評価など、建築音環境分野において多くの業績を残し、建築に関する学術・技術・芸術の発展と向上に貢献した。

同君の研究業績は多岐にわたるが、1950年代後半から60年代前半にかけて行った「音響材料の吸音特性に関する実験的研究」は、穿孔板などの吸音特性の予測法を提示した先駆的研究であり、1968年に日本建築学会賞（論文）を、1969年に「残響室法吸音率の測定精度に関する研究」によって日本音響学会第9回佐藤論文賞を受賞した。その後、音響模型実験（1960年代後半）、室内音響設計指標の検討（70年代）、コンピュータシミュレーション手法の開発（80年代）、反射音方向情報の測定手法の開発（90年代）と続く一連の「室内音場の評価と音響設計への適用に関する研究」、そして「集合住宅の生活騒音に関する研究」（70年代から80年代前半）、「航空機騒音の予測と評価に関する研究」（70年代中頃から80年代中頃）など、建築音環境の分野において独創的な研究業績を残した。さらに、80年代前半から90年代前半に行った「床衝撃音の予測手法に関する研究」は、現在、集合住宅の床構造の設計に広く用いられているインピーダンス法の基盤をなす研究業績であり、同君を中心に纏められた「建築物の遮音性能基準と設計指針（日本建築学会編）」は建築物の遮音設計に関するバイブルとなっている。その後も、「木質系床構造の床衝撃音対策に関する研究」、「軌道上建築物の固体音制御に関する研究」、「音声伝送性能評価に関する研究」、「音環境に関する居住者意識の調査研究」など、建築音環境計画の様々な分野で大きな業績をあげた。また同君は、このような研究成果を生かして音楽ホール等の音響設計を手がけ、音の良いホールを多数実現させた。これら一連の業績に対して、2001年に日本騒音制御工学会研究功績賞が、2006年には日本音響学会功績賞が授与された。

また同君は、本会をはじめ、日本音響学会、日本音響材料協会など多くの学会・協会の運営と発展にも大きく貢献した。本会では、環境工学委員長をはじめ、評議員、学術理事、関東支部長、副会長等を歴任し、日本建築センターでは長年にわたり遮音構造評定委員会委員長として建築物の遮音構造の発展に寄与した。さらに、日本建築学会「実務的騒音対策指針」、日本音響材料協会「防衛施設周辺騒音コンター作成基準」など、建築音響・騒音の分野における学会推奨基準の作成や設計指針の提案を行うなど、指導的役割を果たした。

以上のように、同君は建築音環境工学における学術・技術・芸術の発展と向上に多大な貢献を果たすとともに、数多くの研究者、専門家、実務家を育成した。その功績はまことに顕著であり、本会大賞に値するものである。

よって、同君の功績に対して、ここに日本建築学会大賞を贈るものである。